

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 9月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	2275100499
法人名	有限会社 長者の森
事業所名	グループホーム 長者の森
所在地 (電話番号)	焼津市三ヶ名558-4 (054-620-8114)
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年5月11日

【情報提供票より】(平成21年4月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 7 人/ 非常勤10 人/ 常勤換算6.2 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋造り 3階建ての2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥60,000	その他の経費(月額)	¥21,000
敷金	¥60,000		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	昼食	
	夕食	おやつ	
または1日当たり ¥1,500			

(4) 利用者の概要(平成21年4月11日現在)

利用者人数	14 名	男性	0 名	女性	14 名	
要介護1	4 名	要介護2	1 名			
要介護3	8 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	2 名		
年齢	平均	87.8 歳	最低	82 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	畠山クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

コミュニティホームとして1階に保育所とデイサービス、2階に2ユニットのグループホームが在る複合施設である。グループホームには園児の声が心地よく響き下を覗くと子どもの姿が見られ心が和む。また、デイサービスとの交流もあり、ボランティアの訪問も多く、施設全体でのイベントも共に行われるなど施設の環境や特徴を活かしながら地域の中での役割を果たしている。居間や居室などは広々とし清潔感があり入居者の笑顔も見られ全体的に落ちついた雰囲気がある。管理者のグループホームへの熱い思いを大切に、さらに利用者の気持ちに引き合い、より添い、利用者主体の支援に努力されることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議は3ヶ月に1度を改め、2ヶ月に1度開催されるようになりサービスの向上に繋がっている。食事は職員が準備から片づけを手際よくやっているが、利用者の力を発揮する場面がなく、一緒に食べるなど共に楽しむ環境がまだ整えられていない。自己評価作成については今回も管理者が2ユニットをまとめて記入し、職員個々の取り組みが少なかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価の記入については管理者らが日ごろの職員との話の中からまとめている。職員自身が自己評価の取り組みを行なう事により、ケアの見直しや反省などの気付きの機会ともなる。各ユニットで自己評価を行い、質の向上に繋がられるよう検討を期待したい。外部評価結果についても運営推進会議や職員会議において検討し、ケアの実践や改善への取り組みに結び付けられるよう望みたい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年の3ヶ月に1度の実施を改め、2ヶ月に1度開催されている。市職員や地域包括支援相談員、家族、自治会役員の出席もあり、利用者の様子やサービスの実際、状況報告など話し合われ有意義な会となっている。今後、老人会や民生委員などの参加も検討され益々地域に密着したグループホームとなることを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月の通信には、利用者の生活の様子が写真入りで載せられ家族に発行されている。また、個別にも一人ひとりの様子を担当が記入し同時に送っている。また、家族との面会その他、外食の機会も設けられ、意見を聴いたり交流の場となっており家族も大変喜んでいて。今後は家族同士の交流を望む声もあるので検討をお願いしたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くにお不動さんやお寺があり散歩したり、お祭りにも参加している。夏祭りには、施設内で夏祭りを開催し、地域住民を招いて交流している。保育園児とはおやつと一緒に食べる計画もあり、デイサービスとも関連してのイベントや、ボランティアの訪問など人の出入りも多く、施設は地域に開放されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「在宅介護をサポートし、地域社会に貢献します。可能な限り普通の暮らしが出来る様努めます。思いやりもてなしの心を尽くします。」というコミュニティホームとしての理念はあるが、グループホーム独自の理念はつられていない。	○	コミュニティホーム全体の理念と共に、グループホーム本来のあり方や利用者のニーズ、何が大切かを話し合い、グループホーム独自の理念もつくりあげよう期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	コミュニティホームの理念が掲示されている。職員会議で具体的な内容について話し合っており、職員も意識して実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くにお不動さんやお寺があり、利用者もお祭りや散歩に出掛けている。また、夏祭りには施設内に地域住民を招き、交流を行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価結果は職員に回覧しており、理解を促している。今回の自己評価の記入については、日頃の話し合いの中から管理者らがまとめたものである。	○	職員それぞれが自己評価に取り組むことは、ケアの見直しや反省などの気づきの機会ともなり、職員間の意識合わせになる。質の向上にも繋がることから、ユニットそれぞれに自己評価の記入作成を検討されたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度の3ヶ月に1度を改め、2ヶ月に1度開催されている。利用者の様子やサービスの実際、状況報告など話し合われており、有意義な会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員や地域包括支援センター職員も運営推進会議に出席している。また、市の説明会の参加の他にも必要に応じて相談や照会に出かけている。介護相談員も受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームでの様子を写真に撮り、通信に載せて毎月発行している。担当者が一人ひとりの様子を記入し一緒に送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口での苦情受付、運営推進会議で挙げた意見などの議事録の掲示、そして意見箱も設置している。個々の家族との外食や面会等の機会を捉えて意見を聞いたり話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は1ヶ月毎全員がユニットを交替している。入居者の身体状況、生活状況の申し送り、介護記録を通じて情報を共有し、対応できるようにしている。	○	サービスの質の確保のために、利用者と職員との馴染みの関係を保つことを重視されたい。毎月職員がユニットごと代わることについて再検討されるよう望みたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは計画的に参加の機会を与えている。参加者は報告レポートを提出し、資料と共に職員で回覧している。また、社内研修も行われている。職員会議は月に一度実施され、意識統一や申し送りによってサービスの向上に役立っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「しだ介護サービス事業者協会」に加入しており、研修会、交流会へ参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望があった場合、本人や家族による施設見学を実施している。入居後1～2週間、家族の話の聞いたり、体験しながら徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、理念に添って「もてなしの心」をととても大切にしている。一緒に生活する中で利用者からことわざや知恵を教えてもらったり、ありがたい言葉やストレスを解消する言葉を掛けてもらったり、と支え合う生活もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の性格を把握し、目を見て話しを聞き、表情の変化により思いを汲み取る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の申し送りや月1度のフロア会議での話し合いにより、職員の気付きや家族の意見を取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月毎に、変化が生じた場合は家族と相談して、利用者の状況に即した介護計画の見直しをしている。利用者が必要とされる支援や援助計画を介護記録内に記入し、確認しながらケアをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスと合同で行事やレクリエーションが行なわれ、保育所とも交流がある。順番にマッサージを受けたり、訪問介護を利用し毎週自宅へ戻る利用者もいるなど、職員はその時々々の要望に応じた対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や緊急搬送先の選択は本人や家族の希望により対応している。指定医と連携事業が行なわれ、希望者は月に1度指定医による巡回指導を受けたり、看護職員により体調管理がされるなど、状態変化にも即座に対応できる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・職員・看護職員・医師との話し合いで、状況変化に応じた支援を行っている。昨年12月家族アンケートを実施し、利用者の体調不良時などの連絡について意思確認を行なった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の誇りを尊重した言葉掛けや対応など、職員で話し合い徹底を図っている。しかし、居室やトイレのドアが開けられており、他の利用者や職員に見えてしまう状態にある。	○	ドアを開放することにより利用者の居所確認・状態確認はしやすいが、共同生活の中での個室の持つ意味は大きい。トイレ使用時も同様、利用者の誇り、羞恥心、プライバシーを大切にされた対応について検討されることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者に合わせて対応を心掛けているが、ホームのスケジュールや決まりを優先する生活が見られる。	○	職員は業務に追われ即時の対応が困難な場合も有るが、利用者一人ひとりが本来持っているペースや望んでいるペースに合わせた暮らしが出来る様、個別性のある支援を望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の状態や体調に合わせて給食が用意されている。毎日のご飯はホームで炊いていて匂いを楽しんだり、時々おやつを作る等の取り組みもしている。食事の作業すべてを職員が行ない、検食する職員・介助する職員以外は同じテーブルに付くことは無かった。	○	利用者をお客様とし「もてなしの心」で対応している。しかし、見守りや支えがあれば食事の準備や片付けで持てる力を発揮し、自信や喜び・意欲を引き出す場ともなるので、食事を1日の大切な活動のひとつとして位置づけ、職員と共に食事や会話を楽しむ雰囲気作りをすることが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回時間を決めて、家庭的なユニットバスで入浴している。デイサービスの大浴場でゆったりとした時間を過ごす利用者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	デイサービスと合同で季節の行事や習字・折り紙教室・音楽療法等が行なわれ、慰問などイベントを楽しむ機会が多い。保育所とも交流があり、一緒におやつを食べる事も検討されている。希望者は順番にマッサージを受けることも出来る。利用者は自分の役割として洗濯物を畳んだりしている。	○	職員のプログラムによる行事に恵まれているが、同時に利用者の持てる力や経験・知恵を発揮する場面作りをし、日々の暮らしが一人ひとりの楽しみ・張り合いのあるものになるような職員の働き掛けが望まれる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	担当職員を決め外出計画を立てている。季節の花見や散歩・屋上での外気浴など、利用者の健康状態や天候に配慮しながら外出機会を作っている。3月に回転寿司で行なわれた家族同伴の昼食会が利用者にも家族にも喜ばれた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全確保のためエレベーターはロックされているが、二つのユニットは回廊でつながっていて自由に行き来することが出来る。外出傾向のある利用者には職員が寄り添って対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を実施し、設備の点検・避難経路の確認をしている。現在は夜間帯での訓練はされていないが、水や食料の備蓄はしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるカロリー計算がされた食事が提供されている。毎食の食事摂取量・水分量は記録され、刻み食・ミキサー食など利用者一人ひとりの状態に合わせた支援がされている。毎月給食会議が行なわれ、検食した職員の意見を聞き献立を検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは2ユニットが回廊でつながっており、開放的で明るい造りになっている。吹き抜けからは園児の姿や声が聞こえ、広い廊下に置かれたベンチは日向ぼっこをする利用者の憩いの場になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や日用品が持ち込まれ、居心地良く生活出来るように配慮されている。今までの習慣により床に畳を敷いたり、写真や習字・塗り絵などの作品を飾ったり、植物を育てている利用者もいる。		